

報 告

杏林医学会 第45回例会 開催報告

Indices of Peripheral and Cerebral Vascular Health and Neurocognitive Function in Non-Hispanic Black Individuals

(演者 Dr. Robert Matthew Brothers, Professor, The University of Texas at Arlington)

柴 田 茂 貴 松 田 剛 明

杏林大学医学部総合医療学教室

米国において健康格差は、全人口の健康的な生活の質を左右する重大な課題として認識されている。Dr. Robert Matthew Brothersの研究室では、過去14年以上にわたり、特に非ヒスパニック系黒人における心血管、代謝、脳血管疾患のリスクに焦点を当てた研究を続けてきた。

特に近年、Dr. Brothersは黒人女性に注目した研究を推進しており、彼らが抱える健康格差のメカニズムについて新たな知見を示している。従来の研究では、黒人男性における心血管疾患のリスク増加に関するメカニズムの解明が中心であったが、黒人女性も同様に高い疾患リスクを有することが明らかになっており、女性特有の視点からの研究が求められている。

最新の研究では、社会的要因が黒人女性の末梢・脳血管機能に及ぼす影響を調査し、社会経済的要因と健康の関連性を統合的に解明しようとする試みがなされている。特に、疾病リスクの生理学的メカニズムに関する体系的な調査が不足していた点に着目し、Dr. Brothersの研究はこの分野における重要な新知見を提供すると考えられる。

さらに、日本国内においても在留外国人が増加しており、異なる人種における病態生理の違いを理解することは、臨床的に求められる課題となっている。この講演を通じて、黒人女性における健康リスクの背景を理解し、日本における多様な患者層に対する医療の向上に貢献する知見が得ら

れた。

講演後の質疑応答では、以下のようなテーマについて活発な議論が交わされた。

- 社会的要因と健康リスクの関係：経済的・環境的要因が具体的にどのように疾病発症に影響を与えるのか。
- 研究手法：どのようなデータ収集方法が用いられているか。
- 日本への応用：日本国内における類似研究の可能性や、異なる人種における疾病リスクの比較。

参加者からは、「人種による健康格差についての理解を深める貴重な機会だった」「日本においても多様な患者背景を考慮する重要性を再認識した」といった意見が寄せられた。

Dr. Brothersの研究は、黒人女性における健康格差の要因をより明確にするものであり、社会的・医学生理学的な観点からのアプローチの重要性を示している。本講演を通じて、人種による疾病リスクの違いを理解することの必要性が改めて認識された。

今後は、日本においても多様な背景を持つ患者に対応するための研究を推進し、国際的な知見を取り入れた医療の発展が求められると考えられる。本講演で得られた知見を活かし、より包括的な医療の提供に向けた取り組みを進めていくことが期待される。

